



第10回 ジャパン・レジリエンス・アワード 強靱化大賞

レジリエンスジャパン推進協議会

推奨取り組み

Special selection

貴凜庁株式会社



一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会

「内閣総理大臣賞」創設記念スピーチ 強く、しなやかな国民生活の実現を

岸田 文雄
内閣総理大臣
国土強靱化推進本部 本部長

衆議院議員（広島県第1区選出）。1993年に初当選以来、連続10期。内閣府特命担当大臣、外務大臣、防衛大臣などを歴任し、2017年より自民党政務調査会長、2021年に自民党総裁に選出され、第100代・101代内閣総理大臣（現職）を務める。



オールジャパンで 国土強靱化施策の高度化を図る

ジャパン・レジリエンス・アワード各賞を受賞された皆さま、誠におめでとうございます。

常に自然災害の脅威にさらされているわが国にとって、被害を最小化する国土強靱化の取り組みは極めて重要です。その重要性に鑑み、今年度のアワードから内閣総理大臣賞を創設することといたしました。

元旦に発生した能登半島地震では、半島という地理的制約のため、これまでの災害対応と比較し困難な状況もありました。そうした中、ドローン、循環型シャワー、循環型トイレ、トレーラー、可搬式浄水装置などの新技術が初動対応、応急対応に貢献した事例が見られ、平時から災害時に活用できる新技術、新製品の開発促進の重要性を再確認いたしました。

応募いただいた多くの素晴らしい取り組みの中から、栄えある初代内閣総理大臣賞は、全国災害ボランティア支援団体ネットワークに授与することといたしました。

同団体は、わが国で唯一の全国的な災害中間支援組織として、災害時の連携コーディネート活動に取り組んでおられます。被災者支援の「もれ・むら」をなくし、全国の災害現場でボランティア団体等と被災者、被災地を効果的につなぐ取り組みを展開されてきました。

能登半島地震でも活躍され、私自身、2月に穴水町の避難所で栗田代表とお会いし、ボランティア活動に大きな力を発揮している姿を拝見し、大変心強く思った次第であります。

政府としても、強く、しなやかな国民生活の実現に向け、本日受賞された先進的な企業・団体の皆さまと連携しながら、オールジャパンで新技術・デジタルの導入、活用を積極的に進め、防災・減災、国土強靱化施策の高度化を図ってまいります。

本アワードを継続的に開催し、国土強靱化に貢献されてきたレジリエンスジャパン推進協議会の皆さまのご努力に心から感謝いたしますとともに、本日ご参加いただいた皆さまのご活躍、そしてご健勝を心からご祈念申し上げ、私からのあいさつとさせていただきます。

「国土強靱化担当大臣賞」創設記念スピーチ 災害対応は国土を守る喫緊の課題

松村 祥史
国土強靱化推進本部 副本部長
国土強靱化担当大臣

参議院議員（熊本選挙区選出）。2004年に初当選以来、連続4期。参議院議院運営委員会委員長、自民党総務会長代理を歴任し、2023年より国家公安委員会委員長、国土強靱化担当大臣、内閣府特命担当大臣（防災担当）を務める。



官民一体で 災害に屈しない強靱な国土づくりを

まずは、本年1月1日に発生した能登半島地震によってお亡くなりになられた方々の御冥福を心からお祈りいたしますとともに、被災された全ての方々に心からお見舞いを申し上げます。内閣総理大臣賞を受賞された全国災害ボランティア支援団体ネットワークさまの多大なご支援、ご協力には、防災担当大臣を拝命している私からも、心より感謝申し上げます。

さて、ジャパン・レジリエンス・アワードでは、内閣総理大臣賞と併せて国土強靱化担当大臣賞を創設いたしました。優れた取り組みへの表彰で民間の機運醸成に貢献してきた本アワードにおいて、このような賞を授与させていただけることを大変意義深く感じています。この賞が、民間の取り組みのさらなる促進につながることを期待しております。

今回、国土強靱化担当大臣賞に選ばせていただいたのは、感震ブレーカーとブレーカー作動後も消えない電球の開発・普及にともに取り組まれている株式会社エコミナミさま、日本防災スキーム株式会社さまです。両社が力を合わせ、創意工夫に富んだ画期的な製品を発明してくださいました。

また、国土強靱化地域計画賞を受賞された熊本県八代市は、令和2年7月の豪雨災害の経験を教訓にし、市長の強いリーダーシップの下、地域計画をより実効性の高いものに見直されました。

気候変動の影響により、豪雨災害への備えも喫緊の課題です。八代市の地域計画は、他の地方公共団体の地域計画の見直しにおいても、大変参考になる事例であります。

切迫する大規模地震、激甚化・頻発化する気象災害に対応するため、今後とも、国・地方・民間が一体となり、国土強靱化の取り組みをさらに加速させ、災害に屈しない強靱な国土づくりを進めてまいりたいと考えています。

お集まりいただいた皆さまには、これまでの取り組みに御礼申し上げますとともに、引き続きのご協力をお願いいたします。

大津波で廃校になった小学校が舞台。イベントで遂げる「心の復興」

イベントを通じた心の復興「なないろの芸術祭」

貴凜庁株式会社

東日本大震災で深い傷を負った東松島市。行政主体のハード整備はおおむね完了したが、「心の復興」を見据える民間企業がある。大津波で廃校になった小学校を利活用するとともに、イベントで震災の記憶を広く伝えている。

KIBOTCHAが舞台。震災の記憶を楽しいイベントで伝える「なないろの芸術祭」



防災エデュテイメント施設「KIBOTCHA」。旧・野蒜小学校を利活用する

貴凜庁株式会社は宮城県東松島市を拠点に活動する。東日本大震災で津波被害に遭い、2016年に142年の歴史に幕を閉じた旧・野蒜小学校を同社は改修。宿泊もできる体験型防災エデュテイメント施設「KIBOTCHA（キボッチャ）」を2018年にオープンさせた。KIBOTCHAとは「希望（きぼう）」「防災（ぼうさい）」「未来（フューチャー）」を組み合わせた造語で、「これからの時代を支える子どもたちの未来に命の大切さを伝えたい」との思いが込められている。同社はこのKIBOTCHAを舞台に、「心の復興」を目的とするイベント「なないろの芸術祭」を2019年から毎年開催してきた。芸術・遊び・料理・絵・音楽など、まさに「なないろ」で彩る楽しいお祭りを通して、子どもたちや同地を訪れた人たちに、震災の記憶と教訓を伝承している。2023年のキャッチフレーズは「東松島で君に見せたいアートがある」。さまざまなジャンルの一流の表現者たちがイベントを盛り上げ、延べ約4500人が来場した。

なないろの芸術祭2023

「竹・砂・食・音・遊・絵・心」の7つのキーワードでイベント全体を企画構成。9月7日～9月10日の会期で実施した。

竹

空間装飾

会場装飾は、竹あかり作家の池田親生氏が総合プロデュース。竹を使った大きなステージを、アート作品でディスプレイした。アート作品は野蒜海岸や東名漁業での清掃活動で集めた海洋ごみを用い、ワークショップで制作したものだ。竹に穴を開けてあかりをとす竹あかりは、同社の取り組みがきっかけとなり、いまでは県内外に波及している。

食

地域飲食店の出店ブース

地元飲食店による地域の人気メニューを集めた地域密着型の出店ブースを展開。ブースは空間装飾と一体的に制作している。野蒜亀岡の飲食店への送客にもつながった。

砂

サンドアートジャパンカップ2023

「サンドアートジャパンカップ」を前年に続き開催。アーティスト10名が全国から集結し、3日間で作った作品を競い合った。東松島市との共催。

サンドアートジャパンカップ2023
最優秀賞「時の砂」保坂俊彦氏（秋田県）

音

NOBIRU “WELL” CampFes2023

総勢12名がステージに立つ音楽フェスティバル。代表選手団の強化合宿で同市を毎年訪れる日本ろう者サッカー協会（JDFA）とともに作り上げた。「リンドバーク」のボーカル渡瀬マキ氏や、「湘南乃風」の若旦那氏、同市出身で幼稚園や小中学校に足を運び、音楽を通じて心の復興に寄与し続けている鹿嶋静氏など、豪華な顔ぶれが出演した。

遊

JDFA所属選手とのサッカー交流ブース

JDFAのインクルーシブフットボール体験会と連携し、会場内にJDFA強化指定選手等との交流ブースを設け、リフティング大会などを行った。また、日本障がい者サッカー連盟会長で、元日本代表の北澤豪氏を招いたトークセッションを実施。野蒜海岸でのビーチスポーツ振興策として、ビーチサッカーの可能性にも話が及んだ。



来場者と出演者が全員でスカイランタンを飛ばし、心に届く景色をつくり上げた。

絵

タフティング

タフティングガンと呼ぶ専用の機械を使用して、布の上に束ねた糸を縫い込んでいくタフティング。ラグやカーペットなどを制作する技法として有名だ。最近ではインテリア・雑貨でもタフティングを用いたアイテムが登場しており注目されている。来場者と運営者が協力してタフティング作品をつくった。

心

文化祭というお祭り

2022年の芸術祭は新型コロナの感染拡大の影響でKIBOTCHAへの集客を諦め、敷地外の南余景公園で開催した。2023年は多くの命を救った旧野蒜小学校で行うことができ、震災で傷ついた人々の心に寄り添う文化祭を実現させた。

コトの総合商社・貴凜庁株式会社

貴凜庁株式会社は体験や感動を提供する「コトの総合商社」を掲げる。KIBOTCHAの運営をはじめとする同社の取り組みは、たびたび報道で取り上げられるなど注目を集めており、さまざまな団体の視察・研修を数多く受け入れている。

危機管理事業

同社は自衛隊OBを中心に創設されており、危機管理のエキスパートとして会社や学校など各種団体に対する危機管理教育を行っている。

震災の伝承

被災して廃校となった旧野蒜小学校を震災遺構としてそのまま残すのではなく、多くの命を救ったこの場所から防災を発信しようと、あえて改修してKIBOTCHAを開設している。

心に寄り添う

震災から12年を経て、生き残った人たちの高齢化が進んでいる。同社が送迎付きで始めた「地域食堂」は、住民に受け継がれ、地域に根付いている。毎年3月11日に行っている追悼行事では、サンドアート世界チャンピオンの保坂俊彦氏が制作した作品の周りを「竹あかり」で飾り、宗派を超えた祈りの場として提供している。

SDGs

地域名産のカキの養殖いかだには竹が使われており、4、5年で廃棄される。この竹を無料で引き取り、カキ殻などを落として「竹あかり」に生まれ変わらせた。東京オリンピック2020の聖火が日本に到着したのは航空自衛隊松島基地。到着前夜に滑走路先の東名運河のほとりを、同市の震災での死者・行方不明者数と同じ1133本の竹あかりをともして聖火を迎えた。役目を終えた竹は専用窯で竹炭をつくり、KIBOTCHAで使うバーベキューの燃料や自社農園の土壌改良材などとして有効利用している。



KIBOTCHAでは、日帰りバーベキューやグランピング、キャンプも楽しめる



代表取締役 三井紀代子「なないろの芸術祭」は、震災の記憶を楽しく伝えるために開催しています。多彩なプログラムを通じて、震災の教訓を未来に伝え続けることがわれわれの使命です。地域とともに心の復興を目指し、多くの方々に喜びと感動を届けられるよう努めています。

■貴凜庁株式会社

〒981-0411 宮城県東松島市野蒜字亀岡80（KIBOTCHA）
E-mail: info@kibotcha.com <https://kirintyou.co.jp/>

鍵は民間の自走。 「スマートエコビレッジ構想」が 日本を強靱化する

三井紀代子

貴凜庁株式会社代表取締役

1973年生まれ。山口県出身。航空自衛隊勤務を経て23歳で起業。携帯電話販売代理店経営やモバイル広告事業を展開する。自衛隊OBとともに東日本大震災の復興支援に尽力。これを契機にして2016年、貴凜庁株式会社を設立。東松島市の旧・野蒜小学校を改修して2018年、防災体験型宿泊施設「KIBOTCHA」開業。

渥美巖

東松島市長

1947年まれ。宮城県矢本町（現・東松島市）出身。1966年6月、矢本町役場に入庁し、学校給食センター所長、議会事務局長などを務めた。1995年1月、矢本町役場退職。1995年4月から宮城県議会議員（連続6期）。2017年4月から東松島市長。2021年より2期目を務める。

宮城県東松島市野蒜^{のびる}地区の廃校を活用する「KIBOTCHA」は、独自のアプローチで防災教育の可能性を開いてきた。市長の渥美巖と、運営会社代表の三井紀代子が防災まちづくりを語り合った。

「防災」を基軸にする 交流人口・関係人口の拡大

三井 旧・野蒜^{のびる}小学校の利活用事業として体験型防災エデュテイメント施設「KIBOTCHA」を企画提案しました。東松島市には2018年の開業当初から応援していただいております。とても感謝しています。

渥美 KIBOTCHAには市としても常に注目しています。震災では体育館に避難していたたくさんの人が津波の犠牲になりましたが、2、3階に避難した人たちの命を救った校舎です。防災の体験学習というコンセプトはふさわしいですし、ここで行われる数々のイベントは、防災を超えて、観光や文化振興の面でも地域を元気にする活動だと捉えています。

三井 ありがとうございます。KIBOTCHAをこれまで運営してきましたが、コロナ禍に始めたグランピングや防災サバイバルキャンプなどを通して気付いたことがあります。まず、野蒜エリアに来る人が変わりました。コロナを経て自分自身の生き方を問う個人が増え、一度来た人がその後のイベントを手伝ってくれるなど、深い関係性が生まれています。仕事が急速にオンライン化する中、人とのリアルなつながりを求める傾向が強まっていると感じます。防災サバイバルキャンプでは、竹でいかだをつくって無人島に渡り、自然の中での体験学習を提供しています。参加者たちの生き生きとした様子から、屋内での防災教室では味わえない達成感など、「圧倒的な体験」が持つ力に改めて可能性を見いだしているところです。

渥美 交流人口や関係人口の拡大は、まちづくりの重要テーマで、自然環境やイベントを活用して人とのつながりを育む手法には大いに期待しています。野蒜海岸に高さ7.2メートルの防潮堤がつくられ、この地域の安全性は高まりました。道路は防潮堤の下に通すことが一般的ですが、それではせっかくの海が見えなくなってしまう。そこで、市はさまざまな方法を駆使、関係各方面にかけ合って防潮堤の盛り土を拡幅してもらい、車から海が見える高さの道路が実現しました。観光効果と防潮堤強化を両立させたのです。

1万人規模の避難所をつくる。 「スマートエコビレッジ構想」

三井 今後の展開として、「スマートエコビレッジ構想」を描いています。狙いはずばり、「1万人規模の自走した避難所」の実現です。私たちは能登半島地震の発災2日後から被災地支援を開始し、炊き出しや給食支援、支援物資搬送などを行ってきました。寒さや断水に耐える被災者の状況を見て、大規模な避難所を速やかに開設できるよう、平時から準備しておくべきだと強く感じたのです。「自走」とは、補助金頼みでない、持続可能な経営という意味です。

渥美 1万人収容とはスケールが大きい構想です。
三井 平時には宿泊しながら防災を学べる、災害大国にふさわしい教育・研修の拠点として展開します。先ほどの交流人口、関係人口の話や、気候変動、環境問題の視点を踏まえ、食材の生産や保存、エネルギー、水、地域経済、多様な働き方など、さまざまな面で新しい技術や仕組みを実装します。平常時には一人一人が豊かな人生を再建できる場所であり、非常時には安心して命を守る場所になる。世界に類を見ない共生型スマートエコビレッジです。

渥美 環境省の脱炭素先行地域に選定されているように、市としても環境には力を入れており、共感できそうな構想です。食や経済ということでは、地域自慢の特産品の新展開にもつながるといい。しかし、KIBOTCHAの現在の敷地内では収まりそうにない。
三井 はい。市の協力を得ることは大前提ですが、敷地を超え、まずはKIBOTCHAに近い野蒜の非居住エリアで展開したいと考えています。第二段階では、野蒜エリア全体を見据え、東松島市で成功モデルをつくり、能登半島地震エリアや、自然災害に向き合う全国各地への展開を目指しています。

渥美 津波で流された地域は宅地開発できない決まりですが、防潮堤の設置により無防備ではなくなりました。海水浴場など美しい観光資源もあるのだから、前向きな活用を考えるべき時期が来ていると感じています。防災・減災は引き続き重要で、頻発化傾向にある豪雨災害にもしっかり備える必要があります。これからもぜひアイデアと力を貸してください。

1万人規模の自走した避難所をつくる

スマート エコビレッジ Smart eco-village 構想

スマートエコビレッジ14の要素

（要素1）安心して生命を守ることができる拠点

教育・研修プログラムをアップデートし、現在のKIBOTCHAの敷地を超えて展開規模を拡大します。平常時は、宿泊しながら防災のことを学ぶことができる災害大国日本に必要な教育・研修の拠点。緊急時には、安心して生命を守ることができる場所です。

（要素2）ネイチャーポジティブ（自然再興）

アクアポニックス ▶ 水産養殖の「アクアカルチャー (Aquaculture)」と、水耕栽培の「ハイドロポニックス (Hydroponics)」からなる造語で、魚と植物を同じシステムで育てる新しい循環型農業を目指します。

ソルガム農園 ▶ 1年で育つ植物「ソルガム」は、杉に比べて10倍のCO₂削減効果があるミネラル豊富な雑穀。ドーナツなどの加工品として製造・販売します。CO₂排出権の取引も視野に入れています。

木質バイオマス発電 ▶ 竹や草刈りをした雑草、農業残渣を燃料にしたバイオマスの発電機を設置。すでに竹のペレットづくりに成功しており、実用化への準備は整いつつあります。

（要素3）「X-Charge unit (クロスチャージユニット)」（XCU）の活用／無駄が出ない循環型キッチン

食品に含まれる水分を安定させる食品熱交換装置「XCU」。採れたて・出来たての状態での長期保存を可能にし、食品のポテンシャルを引き出します。無駄を一切出さない循環型キッチンを支えます。



栽培した野菜の保管／新たな商品・メニュー開発／料理人の重労働を軽減／フードロス対策

（要素4）水道水のゼロエミッション

災害時の生活水確保は不可欠。井戸水の活用も含め、必要な水量を全て自分たちで確保できることを目指します。

- ・KIBOTCHAが現在使用している水道水 ————— 250,000m³/年
- ・今後の開発で必要な水量（1万人避難所に向けて） — 12,000,000m³/年

（要素5）排水の微生物処理（自然循環）

東北の海はきれいになったといわれていますが、温暖化の影響でカキの生産量に影響が出るなど、海の「豊かさ」は危機に直面しています。豊かな海への転換を目指します。

- ・自然派洗剤の活用 ————— 環境にやさしい自然素材の洗剤の活用を促進。
- ・バイオトイレ「結」の導入 ————— 微生物を活用した複合発酵技術のトイレで、汚水を飲めるレベルにまで浄化。

（要素6）自然構造による住居（宿泊形態）／緊急時にも自らが手がけ住まいを確保できる仕組み

災害に強い快適な家を、木や土など「地域の素材」を用いて自分たちの力だけでつくれる仕組みを構築します。



平常時

14の要素で構成する
体験型防災教育エンターテインメント施設

緊急時

1万人規模の受け入れが可能な避難所

（要素7）地域経済の活性化

地域の人たちや、応援・共鳴してくれる人たちの意見を取り入れながら、一緒にまちの発展を考える新たな運営体制を構築します。

（要素8）今は手付かずのエリアの活用

津波で被害を受け、今は手付かずの状態に置かれているエリアに、宿泊・滞在ができる施設を拡張・配置。地域の自然の中で学べるコンテンツを充実させます。

（要素9）移動・輸送手段をEV車に置き換える／バイオマス発電でEVを動かす

脱炭素社会にふさわしく、竹を主な原料とするバイオマス発電を行い、つくった電気でEV車を動かします。

（要素10）EV車による物流拠点の確立／自分たちでモノをつくり、直接モノを届ける仕組み

XCUによる冷凍保存と、EV車（キッチンカー、輸送用ミニバンなど）によるゼロエミッション移動・輸送を組み合わせ、物流拠点としての役割を担います。

地域で収穫された一次産品（カキ、ノリ、ソルガムなど）／自社開発の加工食品・スイーツ（米粉ドーナツ・調味料など）／地域のイベント・お祭りでのケータリング／国内他地域の緊急時における炊き出し・救援物資

（要素11）健常者・障がい者・高齢者がともに働く加工場の設立／個性を生かした多様な働き方の実践

カキ養殖で使うホタテの原盤加工作業が担い手不足に直面しています。KIBOTCHAに作業場を整備し、地域との連携・ネットワークで、働く喜びのある環境を構築。障がい者や高齢者を積極的に受け入れます。

（要素12）レジリエントなビレッジ

企業や個人など、共感してくれる方々と仕組みの振り返りをしながら、たとえ災害で壊れてもすぐに回復できるレジリエントなスマートエコビレッジをつくります。

（要素13）衛星インターネットの確保

2024年1月1日に発生した能登半島地震の被災地では、衛星インターネットが活躍しました。衛星インターネット会社（スターリンクなど）と緊急時協定を結び、BCP対策、災害医療現場での情報連携などに役立てます。

（要素14）医療の確保

災害時は、医療施設・機器が損壊し、医師や看護師の被災などにより、医療の確保が課題になります。小さな総合病院の設置や、他地域の病院・医療従事者との連携などで備えます。

インパクト指標
（数値目標）

- 緊急時の受け入れ人数 1万人
- エネルギー自給率 200%
- CO₂の削減量 年間600トン（4ha）
- 関係人口 2万人



一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会は、スマートエコビレッジ構想を応援しています。



ジャパン・レジリエンス・アワードとは

強靱な国づくり、人づくり、産業づくりに取り組む
皆さまを評価・表彰する制度です。

「ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)」は、2014年に創設されて以来、全国で展開されているレジリエンス社会構築への取り組みを発掘・評価・表彰してきました。2017年には、国土強靱化地域計画の策定に工夫して取り組み、地域のレジリエンスを推進している先導的自治体を表彰する部門賞「国土強靱化地域計画賞」を、2021年には、感染症対策に資する先進的な取り組みを表彰する部門賞「STOP感染症大賞」を創設しました。そして第10回を迎えた2024年、政府の国土強靱化推進本部（本部長：内閣総理大臣）では、民間の取り組み等をさらに促進するために、功績のあった企業や団体を本部長（内閣総理大臣）、副本部長（国土強靱化担当大臣）が表彰することとし、「内閣総理大臣賞」「国土強靱化担当大臣賞」が新たに創設され、岸田文雄内閣総理大臣、松村祥史国土強靱化担当大臣出席のもと、表彰式を執り行いました。



2024年4月23日に開催されたジャパン・レジリエンス・アワード表彰式では、東京都立大学名誉教授・中林一樹審査委員より表彰状と盾を授与した。
(イイノホール&カンファレンスセンター／東京都千代田区)

会社概要



■会社名	貴凛庁株式会社
■設立	平成28年7月27日
■資本金	8500万円
■資本準備金	5000万円
■住所	〒981-0411 宮城県東松島市野蒜字亀岡80番
■役員	代表取締役 三井紀代子
■事業内容	宿泊施設運営／企業研修施設運営／社員教育 管理職教育／経営者教育 防災・危機管理教育／損害保険代理業
■TEL	0225-25-7319
■FAX	0225-25-7309
■ホームページ	https://kirintyou.co.jp/